

家族のための健康教室 7

身近な病気 Q&A

1970年代以降、胃がんの死亡率は年々低下しており、ここ20年間でほぼ半減しています。一方で、食物繊維が少なく、動物性脂肪が多い欧米型の食習慣の普及にともなって大腸がんが増加しつつあります。第7回「消化器の病気」では、生活習慣と関わり深いさまざまな消化器の病気の検査や治療、その予防について専門の医師に聞きました。

Q&A ◆専門の医師がお答えします◆

消化器の病気



京都民医連中央病院
消化器内科
科長
木下 公史 氏

Q 逆流性食道炎の原因は。

A 食道に逆流した胃酸によって食道の粘膜が炎症を起し傷むことで起こります。主に腹圧が上昇することによって、食道と胃の境目にある括約筋が緩んで、胃酸が食道に逆流すると考えられています。以前は、高齢で背の曲がった女性で多いと言われていました。

昇が原因に

のが上がってきます。長く続く咳や喘息の様な症状などの呼吸器疾患や反復する中耳炎など他科の疾患と考えられる症状も、実際には逆流性食道炎が原因のこともあります。未治療の方や重症の方では、出血や潰瘍、狭窄をきたす場合もあります。高齢の方や認知症、精神疾患などのため自分で症状を訴えられない方は重症



百万遍クリニック
院長
坂元 直行 氏

Q 炎症性腸疾患とは。

A 原因不明で治療方法が十分に確立されていない難治性の病気がありますが、大腸や小腸に慢性的に炎症を起こす炎症性腸疾患もその一つで、潰瘍性大腸炎とクローン

病変は大腸内視鏡検査で確認

病的2つを指します。現時点では遺伝的要因と食生活など環境因子が相互に作用して発症すると考えられています。

Q 検査と診断について。

A 主な検査として、大腸内視鏡検査、またはバリウム注腸検査を行い

Q 治療法は。

A 内科的治療と外科的治療があります。内科的治療は、5-ASAを改変させるために栄養

病的2つを指します。現時点では遺伝的要因と食生活など環境因子が相互に作用して発症すると考えられています。

Q 検査と診断について。

A 主な検査として、大腸内視鏡検査、またはバリウム注腸検査を行い

Q 治療法は。

A 内科的治療と外科的治療があります。内科的治療は、5-ASAを改変させるために栄養



第二岡本総合病院
消化器内視鏡内科部長
・内視鏡センター長
下村 哲也 氏

Q 現在の消化器内視鏡の進歩について。

A 近年、カプセル内視鏡、小腸ダブルバルーン内視鏡などの新しい内視鏡の登場や処置器具を含

大きな腫瘍が内視鏡で切除可

めたさまざまな技術的な進歩によって、ほぼすべての消化管の診断、治療

が可能になってきました。さらに、画像の解像度の向上に加えて、内視鏡の光を特殊な光に換えて観察することができるようになりました。

Q がんに対する新しい治療法は。

A 内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)が開発されたことにより、2センチ以上の大きな病変で、リンパ節、多臓器に転移する可能性や穿孔の

危険性があるため、外科手術の対象となります。

Q ESD治療の留意点は。

A ESD治療は確かな切除技術を有することが必要です。また、早期がんであってもESD治療の適応外の病変もあり、専門医による相談してください。



宇治武田病院
副院長
宮嶋 敬 氏

Q 胃・十二指腸潰瘍の原因は。

A 胃の粘膜を攻撃する因子と防御因子のバランスが崩れて、攻撃側が強くなったり、防御側が

ストレスためないゆとり持て

弱くなった場合に胃の粘膜がただれて剥がれ落ちるのが潰瘍の発症原因で

胃・十二指腸潰瘍の検査法は、バリウムと内視鏡による

1、PPI(プロトンポンプ阻害薬)が使用

されています。胃酸の分泌を抑えるH2ブロッカー

が、再発しやすい病気でもあります。そのため

精神的にもゆとりを持って生活することが大切です。また、バランスのとれた食事をとるよう

に心がけ、処方された薬はきちんと飲みましょう。潰瘍は治る病気ですが、胃がんでも同じような症状が出る場合がありますので、自己診断で済ますのではなく、専門医での検査をお勧めします。

職場の健康管理

京都産業保健推進センター
保健指導相談員

村田 理絵 氏

連携して適切に対応することが求められます。当センターでは、「発達障害に対する理解と対応」などのテーマで研修会を開催し周知活動を行っています。

■ポピュレーションアプローチ

企業の健診結果で危険度が高い人に絞って事後指

導をすることを「ハイリスクアプローチ」と呼ぶのに対して、対象を一部に限定せず従業員全体に対し、健康づくり活動や環境整備などを行うことを「ポピュレーションアプローチ」と呼びます。企業の安全配慮義務の観点からハイリスクアプローチも重要ですが、少ない時間と費用で高い効果が期待されるポピュレーションアプローチも推奨しています。

■産業看護職の活用

産業看護職は看護師・保健師の資格を有した医療職です。産業医と連携し従業員の身近な存在として産業保健活動をより充実させていく上で、産業看護職をもっと活用していただきたいと思ひます。

いのか」と相談を受けた場合①企業の風土や組織、業務内容②就業規則③安全衛生状況④従業員の健康評価⑤職場環境一をまず知ることから始め、自身の人間関係づくりがベースとなるような助言をしています。

■増えるメンタル相談

パワハラに関する相談や、若手社員の「新入社員」「発達障害」などの相談が増えています。以前、従業員の「注意してもミスが多く、そのフォローのために周囲が疲弊している。どう対応したらよ

